

## 経済建設常任委員会行政視察報告書

\* 報告者

委員長名 武藤 光一

\* 視察研修参加議員名

武藤 光一、松島 緑、川原 光男、川股 洋一、柏野 大介、  
吉永 孝之、早坂 正芳 計7名

\* 視察研修日程

令和5年8月21日（月）～8月23日（水）の2泊3日

\* 視察研修項目

8月21日（月）  
宮崎県宮崎市「ワーケーションの取組について」

8月22日（火）  
宮崎県都農町「道の駅を中心とした6次産業化の取組について」  
熊本県合志市「半導体企業進出に伴う近隣市としての取組について」

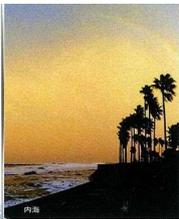
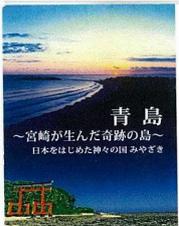
8月23日（水）  
熊本県熊本市「起業支援について」  
くまもとスタートアップセンター XOSSPOINT クロスポイント

視察研修先・宮崎県宮崎市

視察研修項目・ワーケーションの取組について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

＊名刺・写真・資料等＊

<p>宮崎市議会事務局 総務課</p> <p>課長 <b>岩城京子</b></p> <p>〒880-8505 宮崎市橋通西1丁目1番1号 TEL:0985-21-1853 FAX:0985-31-0979 E-mail:ksoumu@city.miyazaki.miyazaki.jp</p> 	 <p>宮崎市 観光商工部 観光戦略課</p> <p>長友政憲 Nagatomo Masanori</p> <p>〒880-8505 宮崎市橋通西一丁目1番1号 TEL:0985-21-1791 FAX:0985-20-2132 E-mail:17kankou02@city.miyazaki.miyazaki.jp</p>
 <p>宮崎市 観光商工部 観光戦略課</p> <p>課長補佐 <b>和田尚子</b></p> <p>Wada Naoko</p> <p>〒880-8505 宮崎市橋通西1丁目1番1号 TEL:(0985)21-1791 FAX:(0985)20-2132 E-mail:17kankou02@city.miyazaki.miyazaki.jp</p>	 <p>MIYAZAKI CITY 宮崎市 観光商工部 観光戦略課 観光プロモーション係</p> <p>主事 <b>富山拓</b></p> <p>Taniyama Taku</p> <p>〒880-8505 宮崎市橋通西1丁目1番1号 TEL:(0985)21-1791 FAX:(0985)20-2132 E-mail:17kankou02@city.miyazaki.miyazaki.jp</p>



視察研修先・宮崎県都農町

視察研修項目・道の駅を中心とした6次産業化の取組について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

\*名刺・写真・資料等\*



日本の  
ひなた  
宮崎県

都農町議会 議長



みわ たかゆき  
三輪 隆之



〒889-1201  
宮崎県児湯郡都農町大字川北4874番地2  
議会事務局：0983-25-5718  
携帯電話：090-1161-0583



宮崎県都農町

副町長 花房 洋一郎

Hanahusa Youtirou

〒889-1201  
宮崎県児湯郡都農町大字川北4874-2  
電話 0983-25-5710 FAX 0983-25-1029  
E-mail y-hanahusa@town.tsuno.lg.jp



都農町議会事務局



事務局長  
河野 浩二



〒889-1201  
宮崎県児湯郡都農町大字川北 4874 番地 2  
TEL.(0983) 25 - 5718  
FAX.(0983) 25 - 1029  
✉ko-kawano@town.tsuno.lg.jp



都農町役場

産業振興課

課長 河野 眞治

〒889-1201  
宮崎県児湯郡都農町大字川北 4874 番地 2  
TEL 0983-25-5721 FAX0983-25-0724  
e-mail: sn-kawano@town.tsuno.lg.jp



都農町まちづくり課 企画調整係

係長 山崎 慎司

〒889-1201  
宮崎県児湯郡都農町大字川北 4874 番地 2  
TEL 0983-25-5711 FAX 0983-25-1029  
Mail yamasaki@town.tsuno.lg.jp



代表取締役

赤尾 誠二

Seiji Akao

株式会社 都農ワイン  
宮崎県児湯郡都農町大字川北14609-20 〒889-1201  
TEL.0983-25-5501 FAX.0983-25-5502  
E-mail seiji@tsunowine.com https://tsunowine.com



ひとりの夢が、  
みんなの夢に。

18/17  
和ハシ  
10/18

昨日の功徳. 2020年



相談役

小畑 暁

Satoru Obata

株式会社 都農ワイン  
宮崎県児湯郡都農町大字川北14609-20 〒889-1201  
TEL.0983-25-5501 FAX.0983-25-5502  
E-mail satoru@tsunowine.com https://tsunowine.com



ひとりの夢が、  
みんなの夢に。

前社長 都農町長 西村



視察研修先・熊本県合志市

視察研修項目・半導体企業進出に伴う近隣市としての取組について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

＊名刺・写真・資料等＊



合志市

〒861-1102 熊本県合志市須屋三五九  
TEL/FAX 096-343-7288  
携帯 090-8830-4475

辻 大 二 郎  
つじ だいじろう

熊本県合志市議会議員  
文教経済常任委員会委員長



合志市議会議長

後 藤 修 一  
Shyuichi Goto

〒861-1102 熊本県合志市須屋327  
TEL 096-344-0791  
FAX 096-344-0791  
E-mail : bfg000683364@cap.bbq.jp



合志市 産業振興部

部長 木 永 和 博 KINAGA KAZUHIRO

〒861-1195 熊本県合志市竹迫2140  
TEL 096-248-1115 / FAX 096-248-2377  
Email:k-kinaga@city.koshi.lg.jp




合志市 産業振興部 商工振興課

課長 後 藤 章 博 GOTO AKIHIRO

〒861-1195 熊本県合志市竹迫2140  
TEL 096-248-1115 / FAX 096-248-1196  
Email:a-gotou@city.koshi.lg.jp




合志市議会事務局

局 長  
米 澤 伸 仁



〒861-1195 熊本県合志市竹迫2140



視察研修先・熊本県熊本市

視察研修項目・くまもとスタートアップセンター XOSSPOINT クロスポイント

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

＊名刺・写真・資料等＊



視察研修先・宮崎県宮崎市
視察研修項目・ワーケーションの取組について
報告者・武藤光一
<p>宮崎市の観光入込数  R 元年 6181 千人→R2 年 3788 千人→R3 年 3218 千人→R4 年 4800 千人  R6 年数値目標 6700 千人</p> <p>宮崎市の観光宿泊者数  R 元年 2598 千人→R2 年 1501 千人→R3 年 1424 千人→R4 年 1980 千人  R6 年数値目標 2800 千人</p> <p>宮崎市の観光消費額  R 元年 89152 百万円→ R2 年 46342 百万円→R3 年 40607 百万円  R6 年数値目標 93000 百万円  *R2 年取り組み 決算 2200000 円  マーケティング調査 成果：31 社が情報提供/1000 社ヒアリング  個人スペースのあるコワーキングスペース セキュリティ重視  *R3 年取り組み 決算 6557077 円  モニターツアー R3 年 11 月 10 日～12 日 参加：ソフトバンク、東京海上、GMO  社会課題の解決、従業員満足度の向上、地域との関係構築、シェア拡大  *R4 年取り組み 決算 3334000 円  地域課題解決型プログラム 1, 田んぼオーナー 2, 大根やぐら（日本農業遺産）  支援制度 実施企業：2 泊以上で 1 泊あたり 3000 円/人 受け入れ企業：100000  円  10 社がワーケーション実施 34 人参加  *R5 年取り組み 予算 5250000 円  コンテンツ魅力向上及び新規開発・商品化  情報発信：SNS 活用 個人向けプロモーション 「ないとーVlog」にて動画掲載  企業へのセールス  支援制度：企業 1 泊以上で 1 泊あたり 3000 円/人 個人 2 泊以上で 1 泊 3000  円  受け入れ企業：100000 円/年 受け入れ実績：3 社 7 人（関東圏企業）</p> <p>（考察・見解）  千歳空港・札幌に近い恵庭にとって、大変参考になりました。  企業のニーズとして社会課題解決、従業員満足度の向上、地域との関係構築、シェア拡大なども理解できました。恵庭にも取り入れ可能な事業と思います。</p>

視察研修先・宮崎県都農町

視察研修項目・道の駅を中心とした6次産業化の取組について

報告者・武藤光一

道の駅「つの」

平成25年7月31日オープン

宮崎市と延岡市のほぼ中間に位置、国道10号線沿い、東九州自動車道都農ICからも5分の位置にある。

道の駅と日向国一之宮都農神社を「開運橋」で直結し、門前町を形成するような作りになっている。

施設：門前市場（物産館） いちご スイートコーン ぶどう 梨 金ふぐ等  
フードコート 福浦食堂 手打ちそば ラーメン ソフト&ドリーム  
観光交流館

6次産業製品：トマトひねり揚げ シャインマスカットくりーむ大福  
苺とろけるクッキー 都農ワイン

売り上げ：R元 442640千円 R2 343875千円 R3 434316千円  
R4 449704千円

来場者：R元 661498人 R2 478008人 R3 566388人 R4 592250人

（考察・見解）

6次産業の展開は慣れた商社と提携している。結果 ユニークな商品が豊富なのでお客が絶えない。商品の売れ筋をチェックし、常に新しい商品を開発して、売り上げの良い商品をだしつつづけているのは、大手スーパー並みでした。

視察研修先・熊本県合志市

視察研修項目・半導体企業進出の伴う近隣市としての取組について

報告者・武藤光一

人口；熊本市 1737946 人 合志市 64474 人 菊池市 47103 人 大津市 36030 人  
菊陽町 43714 人

合志市の概要：市街化区域 1 割、市街化調整区域 9 割の街。このことから、市街化調整区域において、地区計画制度や集落内開発制度等を用いた開発が行われ、現在も人口増加が続く、活力ある街となっている。

合志市：R3 年「合志市半導体産業等競争力強化推進本部」設置

県との連携：「菊池地域行政連絡会議」（菊池市、大津市、菊陽町、合志市）へ熊本県を招聘。

環境への影響：「熊本地域における地下水かん養推進に関する協定書」で推進。

交通渋滞：渋滞解消に向けて、今後整備計画を立てていく。

産業廃棄物の処理：合志市では企業から排出される産業廃棄物の処理に関して支援を行う予定はない。企業の独自処理が基本。

都市計画：人口増が顕著なため、市街化編入区域の検討中。なお、道路、上下水道、学校などの既存インフラの活用、もしくは、新たな都市施設整備のコスト増を考慮し、各公共施設管理の所管課と情報共有を図る。

（考察・見解）

熊本市の隣接市という特性と、半導体企業の進出から、人口増が目覚ましい。ネックは交通渋滞と人手不足。交通渋滞は道路が狭く、拡幅も難しい状況で厳しい。

もう一つは、人手不足が深刻。市役所そばのショッピングモールも人手不足のためオープンできない店もあるとのこと。恵庭においても人手不足は要注意。

視察研修先・熊本県熊本市

視察研修項目・くまもとスタートアップセンタークロスポイント

報告者・武藤光一

2022年4月1日リニューアルオープンした熊本市のビジネス支援施設。

入居者への支援は、主にインキュベーションマネージャー、コミュニティコーディネーター、メンターによる事業成長・拡大に向けたメンタリングが中心。

スモールオフィス 10 社（1 室 25.0~33.5 m<sup>2</sup> 月額 2,800/m<sup>2</sup>）原則 2 年以内。

メインフロア：テーブル席での各種相談、ミーティング利用のほか、中央ステージでは定期的にイベント開催。PC カウンター、カフェコーナー有。

メンター：弁護士、弁理士など 31 名。

スタートアップ支援イベント：「あなたのビジネスの人脈と縦と横の展開をひろげる  
クロスカフェ」

「女性のためのワークスタイル発見会 #3」

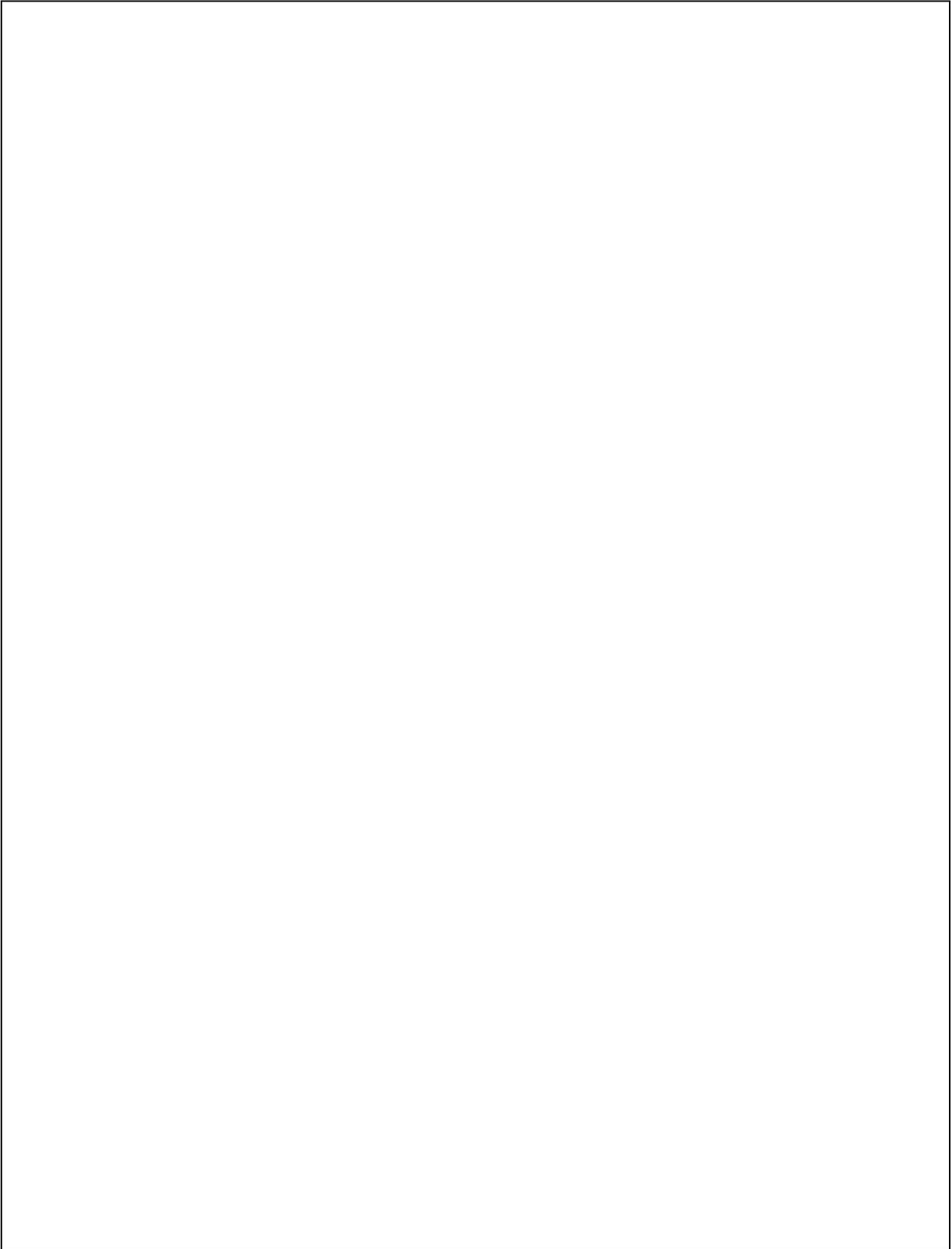
スタートアップウイークエンド熊本：企業を目指す人たちが週末に集まり、新規事業を企画する米国発祥の体験イベント。（3 泊）

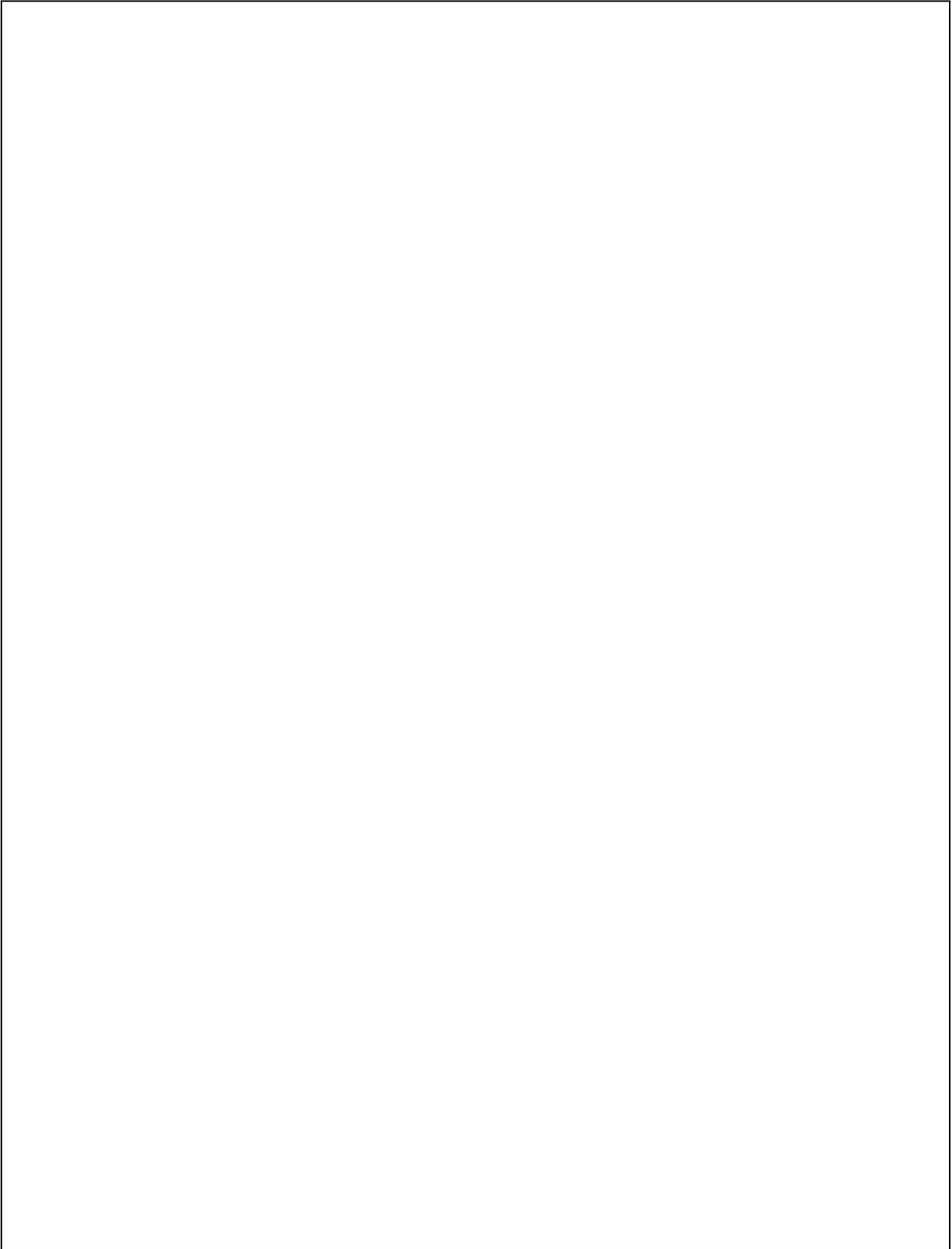
XOSS TALK（クロストーク）：起業家、社会人、学生など幅広い方を対象とした常設の交流会。（メンターやゲストスピーカーが繋ぐ）

（考察・見解）

立地の良い場所にある企業サポート施設。内容も充実していて素晴らしいです。

起業は誰もがあこがれると思うが、消して甘いものではないとおもいます。経験豊富なメンターのアドバイスは心強いものだと思います。恵庭市においても起業したい方は少なからずいると思います。クロスポイントを参考に、起業したい方のサポート体制の充実が望まれるところです。





視察研修先・宮崎県宮崎市
視察研修項目・ワーケーションの取組について
報告者・武藤光一
<p>宮崎市の観光入込数  R 元年 6181 千人→R2 年 3788 千人→R3 年 3218 千人→R4 年 4800 千人  R6 年数値目標 6700 千人</p> <p>宮崎市の観光宿泊者数  R 元年 2598 千人→R2 年 1501 千人→R3 年 1424 千人→R4 年 1980 千人  R6 年数値目標 2800 千人</p> <p>宮崎市の観光消費額  R 元年 89152 百万円→ R2 年 46342 百万円→R3 年 40607 百万円  R6 年数値目標 93000 百万円  *R2 年取り組み 決算 2200000 円  マーケティング調査 成果：31 社が情報提供/1000 社ヒアリング  個人スペースのあるコワーキングスペース セキュリティ重視  *R3 年取り組み 決算 6557077 円  モニターツアー R3 年 11 月 10 日～12 日 参加：ソフトバンク、東京海上、GMO  社会課題の解決、従業員満足度の向上、地域との関係構築、シェア拡大  *R4 年取り組み 決算 3334000 円  地域課題解決型プログラム 1, 田んぼオーナー 2, 大根やぐら（日本農業遺産）  支援制度 実施企業：2 泊以上で 1 泊あたり 3000 円/人 受け入れ企業：100000  円  10 社がワーケーション実施 34 人参加  *R5 年取り組み 予算 5250000 円  コンテンツ魅力向上及び新規開発・商品化  情報発信：SNS 活用 個人向けプロモーション 「ないとーVlog」にて動画掲載  企業へのセールス  支援制度：企業 1 泊以上で 1 泊あたり 3000 円/人 個人 2 泊以上で 1 泊 3000  円  受け入れ企業：100000 円/年 受け入れ実績：3 社 7 人（関東圏企業）</p> <p>（考察・見解）  千歳空港・札幌に近い恵庭にとって、大変参考になりました。  企業のニーズとして社会課題解決、従業員満足度の向上、地域との関係構築、シェア拡大なども理解できました。恵庭にも取り入れ可能な事業と思います。</p>

視察研修先・宮崎県都農町

視察研修項目・道の駅を中心とした6次産業化の取組について

報告者・武藤光一

道の駅「つの」

平成25年7月31日オープン

宮崎市と延岡市のほぼ中間に位置、国道10号線沿い、東九州自動車道都農ICからも5分の位置にある。

道の駅と日向国一之宮都農神社を「開運橋」で直結し、門前町を形成するような作りになっている。

施設：門前市場（物産館） いちご スイートコーン ぶどう 梨 金ふぐ等  
フードコート 福浦食堂 手打ちそば ラーメン ソフト&ドリーム  
観光交流館

6次産業製品：トマトひねり揚げ シャインマスカットくりむ大福  
苺とろけるクッキー 都農ワイン

売り上げ：R元 442640千円 R2 343875千円 R3 434316千円  
R4 449704千円

来場者：R元 661498人 R2 478008人 R3 566388人 R4 592250人

（考察・見解）

6次産業の展開は慣れた商社と提携している。結果 ユニークな商品が豊富なのでお客が絶えない。商品の売れ筋をチェックし、常に新しい商品を開発して、売り上げの良い商品をだしつつづけているのは、大手スーパー並みでした。

視察研修先・熊本県合志市

視察研修項目・半導体企業進出の伴う近隣市としての取組について

報告者・武藤光一

人口；熊本市 1737946 人 合志市 64474 人 菊池市 47103 人 大津市 36030 人  
菊陽町 43714 人

合志市の概要：市街化区域 1 割、市街化調整区域 9 割の街。このことから、市街化調整区域において、地区計画制度や集落内開発制度等を用いた開発が行われ、現在も人口増加が続く、活力ある街となっている。

合志市：R3 年「合志市半導体産業等競争力強化推進本部」設置

県との連携：「菊池地域行政連絡会議」（菊池市、大津市、菊陽町、合志市）へ熊本県を招聘。

環境への影響：「熊本地域における地下水かん養推進に関する協定書」で推進。

交通渋滞：渋滞解消に向けて、今後整備計画を立てていく。

産業廃棄物の処理：合志市では企業から排出される産業廃棄物の処理に関して支援を行う予定はない。企業の独自処理が基本。

都市計画：人口増が顕著なため、市街化編入区域の検討中。なお、道路、上下水道、学校などの既存インフラの活用、もしくは、新たな都市施設整備のコスト増を考慮し、各公共施設管理の所管課と情報共有を図る。

（考察・見解）

熊本市の隣接市という特性と、半導体企業の進出から、人口増が目覚ましい。ネックは交通渋滞と人手不足。交通渋滞は道路が狭く、拡幅も難しい状況で厳しい。

もう一つは、人手不足が深刻。市役所そばのショッピングモールも人手不足のためオープンできない店もあるとのこと。恵庭においても人手不足は要注意。

視察研修先・熊本県熊本市

視察研修項目・くまもとスタートアップセンタークロスポイント

報告者・武藤光一

2022年4月1日リニューアルオープンした熊本市のビジネス支援施設。

入居者への支援は、主にインキュベーションマネージャー、コミュニティコーディネーター、メンターによる事業成長・拡大に向けたメンタリングが中心。

スモールオフィス 10 社（1 室 25.0~33.5 m<sup>2</sup> 月額 2,800/m<sup>2</sup>）原則 2 年以内。

メインフロア：テーブル席での各種相談、ミーティング利用のほか、中央ステージでは定期的にイベント開催。PC カウンター、カフェコーナー有。

メンター：弁護士、弁理士など 31 名。

スタートアップ支援イベント：「あなたのビジネスの人脈と縦と横の展開をひろげる  
クロスカフェ」

「女性のためのワークスタイル発見会 #3」

スタートアップウイークエンド熊本：企業を目指す人たちが週末に集まり、新規事業を企画する米国発祥の体験イベント。（3 泊）

XOSS TALK（クロストーク）：起業家、社会人、学生など幅広い方を対象とした常設の交流会。（メンターやゲストスピーカーが繋ぐ）

（考察・見解）

立地の良い場所にある企業サポート施設。内容も充実していて素晴らしいです。

起業は誰もがあこがれると思うが、消して甘いものではないとおもいます。経験豊富なメンターのアドバイスは心強いものだと思います。恵庭市においても起業したい方は少なからずいると思います。クロスポイントを参考に、起業したい方のサポート体制の充実が望まれるところです。

視察研修先・宮崎県宮崎市
視察研修項目・ワーケーションの取り組みについて
報告者・公明党議員団・松島 緑
<p>* 議員個々の考察と見解 *</p> <p>近年の国の働き方改革や新型コロナウイルス感染症の拡大を背景に新たな働き方が求められています。大手企業が都心部に集中している中、近年リモートワークなど『ワーク』と『バケーション』（仕事と休暇を組み合わせ）ワーケーションが普及する事で職場から離れた自宅や郊外で仕事をするなど生活スタイルが変化しつつあります。恵庭市としても、令和5年6月「恵庭市ワーケーション基本方針」を策定。ワーケーションの推進に向けて宮崎市の「ワーケーションの取り組み」について視察研修。</p> <p>宮崎市の人口400,239人海と山と街が近くと空港からも30分以内。豊かな自然と温暖な気候、海の幸・山の幸・食材が豊富。マリンスポーツ・トレッキング・ゴルフなど、余暇を楽しみ、また、健康づくりの機会が身近にあり、住みやすい環境となっている。「平成23年総務省統計調査」では通勤、通学にかかる時間が日本一短いまちであること。ゆとりの時間を趣味に生かせる等住みやすさとして評価されている。恵庭市も千歳空港と札幌の中間地点、交通の利便性も良く自然豊かで緑と花が多い街並み、子育てしやすい住みよいまちであり共通点も多いと感じた。宮崎市では令和2年度首都圏企業等のニーズ把握するため、マーケティング調査を実施。アンケート調査では 1、ワーケーション制度の有無 2、検討を行っているのか 3、どのような環境が必要か 4、どのような支援制度が必要か 5、どのようなアクティビティ体験が必要なのかを市場調査を行った。成果として2000社ヒヤリング調査31社が検討しているとの回答。環境整備としては個人スペースのあるコワーキングスペースやセキュリティを重視する回答が多く。まだまだリモートワークの取り組みの導入を検討している企業は少ないと感じた。令和3年度モニターツアー実施、ソフトバンク株式会社、株式会社東京海上日動、GMO株式会社他12社、ツアー内容としてコワーキングスペース視察、アクティビティ体験。また、企業視察、焼酎体験、農業体験。企業ニーズとして社会課題の解決、従業員の満足度の向上、地域との関係構築など、90%の参加者が満足と次回も利用したいと回答していた。令和4年度については地域課題解決へのプログラムを実施。1、田んぼオーナー（ワーケーションの一環でコメの収穫、田植え実施・企業や団体がオーナーとなり、宮崎市でワーケーションや地元農産品PRした）2、大根やぐら体験（大根収穫、やぐらかけなど体験地元農家と交流・他、茶葉を使った練り香づくり、朝どれスイートコーン収穫体験など体験）利用者からは農業体験などがとても好評社員みんなで一緒に作業する事が良い。（支援制度）実施企業：2泊以上1泊3000円/人・受け入れ企業：農家・事業者へ最大100,000円/年。成果として10社34名が利用最も重要視されている事が「地域や企業との関係構築」「ネット環境」アクセスが良いこと。「地域課題型解決型ワーケーション」がリピーター創出に繋がっている。令和5年度より、観光としてのワーケーションについては点在しているコンテンツやサービスなど整理し受け入れ団体にノウハウを持つ旅行代理店などアドバイザーとして派遣してコンテンツのブラッシュアップを図っていく。情報発信個人向け⇒SNSを活用、地元企業⇒重点的にセールス実施。（支援制度）実施企業：1泊3,000円/人 個人：2泊以上1泊3,000円/人※コアワーキングスペース利用、受け入れ企業：農家・事業者へ最大100,000円/年。令和5年度実績 企業3社 7人（8/17日時点）地域課題は農業の人手不足。観光促進などについては、まだ取り組みとしてはこれからであることが感じられた、新たな働き方が求められる中ワーケーション事業については観光需要の創出、交流人口の増加、関連事業の活性化（宿泊施設、飲食店、小売店、などへの経済効果など）移住・定住促進のきっかけづくりとして、本市としても適切な準備と情報収集が必要であることや、企業や個人が求めていることをしっかり掴んでいかなければならないと感じた研修であった。</p>

視察研修先・宮崎県 都農町
視察研修項目・道の駅を中心とした6次産業化の取り組みについて
報告者・公明党議員団・松島 緑
<p>*議員個々の考察と見解*</p> <p>恵庭市としても地元野菜が好評である道の駅ではありますが、今後更に6次産業化の取り組みを強化し、恵庭のまちの魅力発信の場となり今後更に経済効果をあげていくことが重要。都農町は海山地がそろった農業のまち。地場産のぶどうを使った「つのワイン」や、宮崎牛、豚鶏にトマト、キュウリなど年中豊富な果物野菜など一次産業にめぐまれたまち。都農町は数年前迄、人口減少となり町民所得が減る中、主要産業の畜産も口蹄疫で壊滅的被害豚鶏牛が全滅大きな痛手となった。町の生き残りをかけ道の駅を主要産業として力を入れ成功まで導いた「道の駅つの」の取り組みを視察研修先とした。</p> <p>都農町では、人口減少が続くまちがさびれていくなか、道の駅で交流人口を増やし、まちを元気にする。道の駅が主要産業である農業の6次産業化を牽引する事で雇用が生まれ、所得も上がり、町民の交流の場としても活躍出来る。平成25年に「道の駅つの」オープン。</p> <p>10年計画で「道の駅を中心とする市街地の活性化」を行った。総予算を最小限に抑えて、口蹄疫からの復興ファンド活用、道の駅の運営は、農協、漁業、商工会が共同出資し設立「株式会社まちおこし屋」が行っている。地域の経済界が手を組んでいるのは全国的にもまれなこと。町の未来を考え各分野のリーダーが手を取り合い総戦力で道の駅を軸にしたまちづくりに取り組んだ成功事例であった。</p> <p>過去11年間で当初40万人の集客目標。</p> <p>平成25年度 594.368人 平成26年度 604.852人 平成28年度 669.802人 平成28年度 678.020人 平成29年度 685.600人 平成30年度 678.796人 令和元年度 661.498人 令和2年度 478.08人 令和3年度 566.388人 コロナ禍での減少から昨年度令和4年度 592.250人が来場。ふるさと納税についても平成25年度 316.00/千円 平成29年度 11.178.000/千円 令和4年度 450.569/千円となった。テナント売り上げでは 平成25年度 316.000/千円 平成29年度 437.000/千円 令和4年度 449.704/千円 黒字経営となった利益の中から町の財政に1億円寄付。税収入は35%増収となった。また、道の駅が商社機能も担っている。</p> <p>高齢者のサロンやイベント会場としても機能。さらに、「道の駅つの」でしか売っていないお土産商品を作り3か月ごとに新製品を研究開発、ヒット商品を生み出している。また、店内で2000円以上買うと送料が無料となり、お土産を買う側としては思わず一つ二つ多めに買ってしまう。</p> <p>また、ふるさと納税の返礼品が充実したことでふるさと納税額が平成25年104万円⇒平成29年79億1千万円に激増。成功した背景には、高齢化が進む農家の人たちの思いに寄り添い、町民の立場にたち、役場と事業者団体が総力を上げ、都農町のまちの魅力を最大限に活かしたまちづくり。</p> <p>高齢化の一次産業をマイナスで終わらせずプラスへ発想転換したこと。少しでも所得をあげ、改めて仕事の喜びを感じるまで、町民に寄り添い続けたことが成功に導いた秘訣だと感じました。</p> <p>都農町は背伸びすることなく、まちの良さを改めて引き出し人と人の結束力とどの様な状況でも諦めない事が最高の力となったのではないかと感じた視察研修となった。</p> <p>恵庭市としても恵まれた環境の中で、時代とともに新たな発想の転換で、恵庭のまちらしさがもっと引き立つことができるのではないかと感じた。今後の道の駅の取り組みとして参考として参りたい。</p>

<p>視察研修先・熊本県合志市</p>
<p>視察研修項目・半導体企業進出に伴う近隣市としての取り組みについて</p>
<p>報告者・公明党議員団・松島 緑</p>
<p><b>*議員個々の考察と見解*</b></p> <p>本年2月に千歳市に半導体工場 Rapidus（ラピダス）株式会社の建設が決定したことで近隣市への波及効果について、既に台湾の半導体大手の工場建設中の熊本県菊陽町に隣接した合志市を視察研修先とした。</p> <p>合志市は昭和46年熊本都市計画区域に指定され開発余地が少ないことから地区計画制度や集落開発制度を用いて開発が行われ人口増加、市域の9割が市街化調整区域。北東部に位置し。上下水道の整備、公共下水道事業着手など住環境の整備に努め、企業等が立地する産業都市として住みやすい自然豊かな地域として発展。</p> <p>菊陽町へ日本初の半導体工場建設決定を踏まえ熊本県が主導となり。令和3年11月「半導体産業集積強化推進本部」及び『半導体産業集積強化推進プロジェクトチーム』を設置、合志市としても半導体企業進出に伴い波及効果を最大限にキャッチし併せて発生する課題に迅速に対応するため、令和3年12月「合志市半導体産業等競争力強化推進本部」を設置。県との連携については、菊池市、大津町、菊陽町、合志市で連携する『菊池地域行政連絡会議』では県と近隣市で密に情報共有し連携。</p> <p>半導体工場建設について、環境への影響などについては懸念もあるが県として、環境保全対策、環境モニタリング（水質・大気）の拡充、法令の規制外の金属や化学物質を調査。新たな半導体関連工場の稼働前後での環境変化を検証。</p> <p>合志市では道路が慢性的に渋滞する事が大きな課題。今後更に交通量の増加、人口増加を踏まえて多線化が喫緊の課題。セミコンテクノパークへの主要アクセス道路多線化計画を今年度道路設計及び用地測量計画している。また、半導体工場ができることで期待される効果大きいが見込めでも人材確保が大きな課題。関連企業が次々設備投資を進める中で人材確保が難しい。また、半導体人材の育成が必要となることで、熊本大学では2024年度には半導体やデータサイエンスが学べる学部『情報融合学環』学部と学科『工学部半導体デバイス学課程』が新たに増える。沖縄・九州『熊本高専』合志市など9の高専では半導体の授業を始めて若い世代の人材確保へ向けて取り組んでいる。外国人技術者や労働者も増え外国人の子供たちが学べる。熊本大学にインターナショナルスクール開設予定。また、住宅の需要の高まりで宅地高騰、住宅地不足整備を進めている。</p> <p>本年5月合志市にソニーグループ半導体工場建設決定。27ヘクタールの用地取得。</p> <p>恵庭市としても町の規模としても大変に共通点も多く、世界最大とされる半導体企業進出に対して近隣市として半導体関連企業の進出を見込み宅地造成、工業用地に整備が必要とされる。今後どの様な経済効果をもたらすのか課題や取り組むべきことなど大変に参考となる研修となった。</p>

視察研修先・熊本県熊本市
視察研修項目・企業支援について
報告者・公明党議員団・松島 緑
<p>* 議員個々の考察と見解 *</p> <p>恵庭市では起業支援として『恵庭起業塾』を開催、起業目指す方への相談ノウハウを学ぶためのセミナーなどを開催している。今後更に起業家の方に寄り添った相談・伴奏型支援が求められる。</p> <p>熊本市の起業支援が先進的な取り組みを行っている。熊本市が取り組む『熊本市創業支援事業計画』に賛同したC—design 株式会社は起業を目指す学生や若手経営者、次世代の産業の担い手の育成に取り組むスタートアップ施設 XSSPOINT（クロスポイント）へ、創業支援サービス『Cocrea(コクリエ)』経営課題を解決するコンテンツを集約した業務支援プラットフォームサービス。および土業向けマーケティング支援サービス『cocrea bridge (コクリエブリッジ)』始業の方々が、WEB 上の『専門家Q&amp;A』やリッチなプロフィールページ、コラム執筆を通じて相談者につながる機会を得ることで、将来の顧客獲得たブランディングを支援するサービスを無償で提供し起業を始める方や更に土業の方々への強いサポートを行っていた。</p> <p>熊本市では新産業創出に資する起業家発掘目指して「起業家ファースト」を最優先にした起業支援を行っている。また、支援機関などを巻き込んだコミュニティーを形成。熊本スタートアップセンタークロスポイント XSSPOINT では年間通して、スタートアップ支援に関する様々な伴奏型支援を実施。「持続的にイノベーションが生まれるまち熊本」の実現に向けて、県内外の起業家・事業者と連携し新たなビジネス新産業の創出を進めている。</p> <p>起業を目指している方、第 2 の創業など新たな事業に取り組む方がビジネスを成長させるため、第一線のスタートアップ関係者の知見や企業に関する知識を学ぶプログラムを 2022 年より定期開催。エンジニアにならないひとのためにプログラミング、経験ゼロから学ぶ事業開発プログラムなど成長ステージに合わせた支援プログラムや起業家のコミュニティーの形成を図っていた。</p> <p>1、起業家には欠かせないプログラミング学習,WEB サービスを開発するには必須のスキル『終了までにプロダクト完成させること』が目標『こんなサービスを使って熊本を元気にしたい』『あんなサービスを作ること社会を元気にしたい』起業家の思いをカタチにするプログラム。</p> <p>2、スタートアップウイークエンド熊本</p> <p>起業を目指す人たちが週末に集まり、新規事業を企画する米国発祥の体験イベント開催 参加者同士がチームを作り、企業やマーケティングの専門家から助言を受け、3日かけて事業計画練り上げることで起業家を増やす取り組みをおこなっていた。</p> <p>3、XOSS TALK（クロストーク）</p> <p>起業家の卵が集まり交流を生むための隠しイベント開催。各分野の起業家、社会人、学生など参加。熊本市では中小企業と連携した、熊本県起業化支援センターと連携しそれぞれの機関や支援策の情報が一手に得られる相談窓口を設置したことで起業への入り口大きく広げていた。</p> <p>恵庭市としてもとても参考となる視察であった。起業する方にとって伴奏型支援はとても心強い支援ではないかと思えます、また経営していく中でも課題が見えてくる中で相談体制が幅広く情報を得られることで、経営についても安定したまた、更に経営能力を伸ばしていくことができる。今後更に恵庭市としても、新たな起業支援することでイノベーションや雇用の創出、賑わい、移住促進など様々な経済効果をもたらすことが出来る。今回の視察先はとても参考となる研修となった。</p>

視察研修先・宮崎県宮崎市
視察研修項目・ワーケーションの取り組みについて
報告者・川原光男
<p>ワーケーションのウェブサイトを観光協会が運営、調査・アンケートなどを委託している。</p> <p>令和 2 年に、首都圏企業等へ 2,000 件の市場調査、うち 31 社が情報提供希望、制度の検討。環境整備については、個人スペースのあるコワーキングスペースやセキュリティを重視していると回答あり。決算 2,200,000 円</p> <p>令和 3 年の取り組み 決算 6, 557, 077 円 12 社の参加で全額支援をした。</p> <p>成果として、社会課題の解決、従業員満足度の向上、地域との関係構築、シェアの拡大などが求められていることが分かった。</p> <p>総合的な評価の満足度は、90.5%の参加者が満足、大満足と返答。</p> <p>令和 4 年の取り組み 決算 3, 334, 000 円 内容は、地域課題解決型プログラム 「田んぼオーナー」「大根やぐら体験」 支援制度 実地した企業へ 2 泊以上で 1 泊当たり 1 人 3,000 円、受入れ農家や事業者へ最大年 100,000 円の支援 成果は、地域課題解決型ワーケーションがリピーターの創出につながっている。</p> <p>令和 5 年の取り組み 決算 5,250,000 円 施策 コンテンツ魅力向上及び新規開発・商品化 コンテンツのブラッシュアップを図ることと、地域課題解決型のワーケーション向けプログラムの開発へ進める。 情報発信に鋭意拡大を図る</p> <p>起業へのセールス 宮崎市にオフィスを構える首都圏の企業に対して重点的にセールスを実地</p> <p>支援制度 実施企業、1 泊以上で 1 泊当たり 1 人 3,000 円（2 人以上 5 人以内） 個人、2 泊以上で 1 泊当たり 1 人 3,000 円（期間中にコワーキングスペースを 1 回以上利用） 受入事業者・農家へ、最大 100,000 円（受入 1 回に 5 万円を上限、次年度以降も引き続きワーケーションの受入れを実施することとしている。 今回の視察で、ワーケーションの概念を変え当市なりのやり方があることが確認出来た</p>

視察研修先・宮崎県都農町

視察研修項目・「道の駅つの」道の駅を中心とした 6 次産業化の取り組みについて

報告者・川原光男



道の駅は、公設民営方式の委託方式で運営、指定管理 7 : 3（公的箇所）

都農町商工会・JA 尾鈴・都農町漁協の 3 社の出資で株式会社を設立、実質営業責任者道の駅店長を公募し適任者が事業に当たっている。

農業など商品の端境期は、土産物で販売売上をカバーする戦略を講じている。

6 次産業への取組みについては、駅長さんの素晴らしい発想力と努力を感じ、売り上げへの増加へ並々ならぬ意欲を感じることが出来た。

写真で分かる通り、農家の生産物の B 品など買い上げそれを適切な加工場を調べ、オリジナルの土産物として、写真で見る通り 6 次産業の土産物製品の厚みのある意欲ある陳列でお客様へのアプローチが並々ならぬものを感じた。

また、リピート力のある商品の発掘へスタッフ現場の働く方々の目線を大事にし、それを取り込む店長の商品開発力の眼力と力を感じた。

納入事業者である高齢化が進む農家の方々にも、納入のやさしさ、お手伝いなどにより、道の駅に納品に行くことが楽しい。と思われる愛される道の駅としている。

納入農家数は、当初は 125 戸からスタートしたが、今では 365 戸となり底上げが図られている。

私の考察

公設民営とはいえ、税の投入により全ての納税者の為の駅となることの説明が出来ることが肝要であり、結果として 1 億 5,000 万円の金額を町へ納入されたことは正しい。

その利益を生み出せる能力は、道の駅駅長の能力とやる気に全てが掛かってくると思う。やはり適切な人材の確保が重要と感じた。送料無料は大きく売上に影響がある。

視察研修先・熊本県合志市

視察研修項目・半導体企業進出に伴う近隣市としての取り組みについて

報告者・川原光男

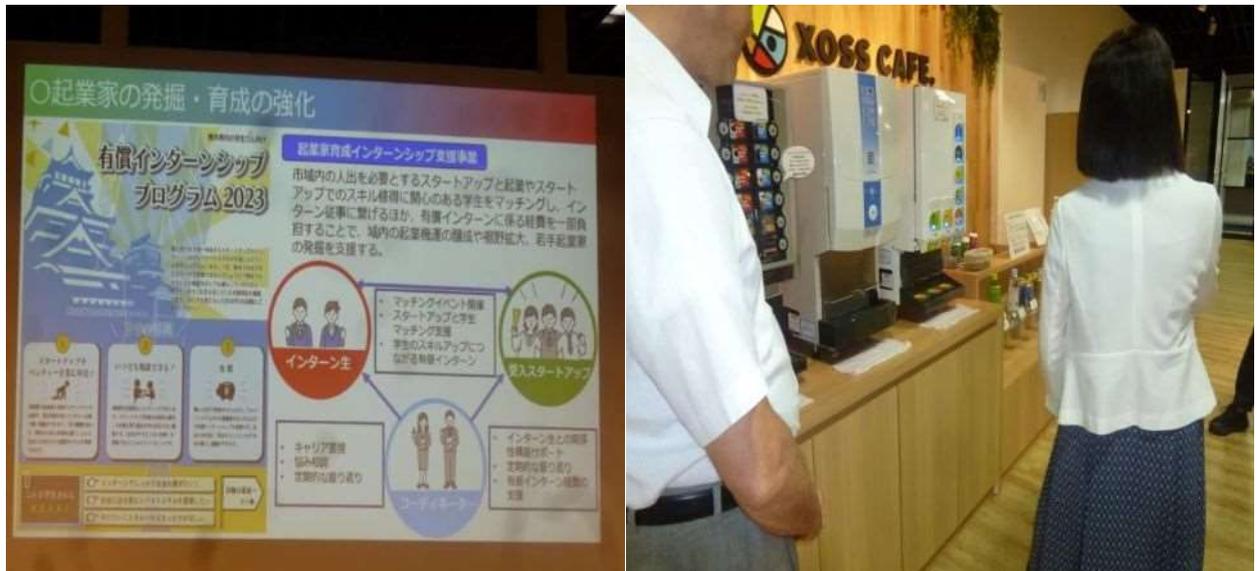


上記の写真の様に、セミコンテクノパークには半導体関連企業が 10 社以上操業しておりその周辺における産業集積が一段と進む見込みと、積極的な取組の姿勢を感じた。当然人口増も予測されその市街化編入区域の検討も行っている。また、その市民生活を支えるための新しいショッピングセンターも稼働させており消費生活の受け皿も行われていた。ただ、交通渋滞は激しく操業中の会社には 5000 台規模の車が駐車していた。また、人手不足が甚だしく営業がままならない店舗も出ているようで、有効求人倍率は 1, 4 1 % と報告があった。人材確保計画についてはまだのようであった。排水は公共下水道を使うとの話であった。まだまだ地域社会に課題が出てきそうに感じた。

視察研修先・熊本県くまもとスタートアップセンター、クロスポイント

視察研修項目・創業・起業支援について

報告者・川原光男



熊本市へのスタートアップ支援や創業支援は、意欲があり興味あるテーマや相談会に参加、其の後に話を聞きながら様々な発展につながる支援を行っていく。

創業支援室の入居期間は 1 年間限りとし 1～3 月で新たな入居者を募集選定 4 月に一斉に入れ替える制度。

スモールオフィスは、起業済みの事業者が入居、継続的なフォローアップを中小企業診断士等による支援を継続している。

また、創業支援室のみならず、スモールオフィス入居者を含めた交流会を不定期に開催し、入居者同士の繋がりや協業も生まれており効果的との判断。

まずは、訪れた時の印象は、とても柔らかい！柔軟な発想をもって知識が吸収できるのではないかと、難しくなく何かやれそうな予感が生み出す環境と雰囲気醸し出されている。起業・創業はその様な環境から生み出されるのではないかと、背広を脱ごう！

### 報告書 3

視察研修先 宮崎県宮崎市

視察研修項目 「ワーケーションの取組について」

報告者 川股 洋一

ワーケーションという言葉の由来は、「ワーク（仕事）+バケーション（休暇）=ワーケーション」。つまり、観光地や帰省先など、自宅以外の休暇先で、リモートワークする過ごし方のこと。ここ宮崎市でも、青島や一ツ葉エリア、中心市街地などに様々なワークプレイスやアクティビティを楽しめる環境が整っています。

目の前は海！最高の立地で宮崎の太陽と潮風を浴びて、さまざまなアクティビティが楽しめます。

ウォーターアクティビティでは、サーフィンやボディボードをはじめ、カヌーや SUP、シュノーケリングなど 12 のメニューをご用意。

アウトドア体験ではセグウェイやヨガ、いちご狩り、トレッキングなどが、クラフト体験ではお土産にも最適なキャンドル作りや貝殻を使ったフォトフレーム作りなどが楽しめます。初心者でも安心安全に楽しめるメニューもたくさんご用意してお待ちしております。

宮崎市はワーケーション（ワーク+バケーション）という働きながらリラックスできる新しいスタイルの取り組みを行っています。この取り組みは、宮崎市が美しい自然環境や観光資源を活かし、企業や働く人々が宮崎での仕事とリフレッシュを両立させることをサポートするために始まりました。

具体的な取り組みとしては、宮崎市内のホテルや旅館でのテレワークに適した施設の提供や、Wi-Fi 環境の整備などが挙げられます。さらに、ワーケーションを利用する人々に対しては、宮崎市の観光情報や地域の魅力を提供するための支援も行っています。

また、宮崎市では地域資源を活かしたワーケーションプログラムも開催しています。これには、地元の特産品を使った料理教室や、自然体験などが含まれており、仕事とリフレッシュを充実させることができます。

宮崎市のワーケーションの取り組みは、地域振興と働き方改革の一環として注目されており、多くの人々に好評を得ています。仕事とプライベートのバランスを取りながら、宮崎の魅力を楽しむことができる機会として、ワーケーションを活用してみる価値があります。



宮崎県は、1960年以降、昭和天皇の第5皇女である貴子さんと島津久永さんが新婚旅行で宮崎を訪れたことをきっかけに宮崎は空前のハネムーンブームに！気軽に海外旅行へ行けない時代に、宮崎の温暖な気候と南国の雰囲気の後押しとなり、脚光を浴びました。現在でも日本を代表するリゾート地として人気を誇っています。

**宮崎の南国を感じる絶景フォトスポットはここ！**

宮崎県は日照時間が長く「日本のひなた」と称され、宮崎県の県木「フェニックス」に代表されるように南国情緒あふれる絶景ポイントが点在しています。



堀切峠・日南海岸

「鬼の洗濯板」と言われる不思議な地層が見え隠れする海岸沿いはドライブで走り抜きたい絶景スポットである。



### 青島神社

青島にかかる「弥生橋」を渡り鳥居をくぐって青島神社へ。亜熱帯植物に囲まれた神社にはたくさんのフォトスポット見られる。



サンメッセ日南 世界で唯一イースター島の許可を得て復刻されたモアイ像を始め日南海岸に面した広大な敷地には感動的な景色である。



### フェニックス・シーガイア・リゾート

アクティビティから宿泊まで、まさにのんびりとした南国バカンスを楽しめるエリア内はフォトスポットの宝庫！



### ワシントンニアパームを植え替え中！？

宮崎県の県木「フェニックス」と並び、宮崎でたくさん目にする「ワシントンニアパーム」。50年以上も前に植えられ、今では25メートル以上に育ったものも。大きくなりすぎて維持管理面や倒木被害などの問題も。宮崎の景観を守るために少しずつ植え替え工事がスタートしております。南国リゾートならではのアクティビティを楽しみ、暖かい気候ときれいな

海。宮崎で楽しめる南国ならではのアクティビティで、心も身体もリフレッシュできる。



### 北海道は「すすきの」、福岡は「中洲」、宮崎は「ニシタチ」で赤くなる！？

宮崎最大の歓楽街といえば通称「ニシタチ」。宮崎市の中心部、西橋通りをメインに 1000 軒以上の飲食店が立ち並びます。宮崎グルメや美味しいお酒、ひとりで気軽に入れるお店も多く、ハシゴ酒もおすすめです。

また、宮崎の美味しいグルメは？と聞くと宮崎県人の回答はさまざま。宮崎市内には少し足を伸ばせば、海も山も川もあるのがこの理由なのかもしれません。刺身でも揚げても焼いても炙りでも旨い宮崎地鶏をはじめ、日本一にも輝いた事のある宮崎牛。近海かつおの一本釣と沿岸まぐろはえ縄漁は近年連続日本一もちろん野菜や米、果物も美味しい宮崎はまさに食材の宝庫！加えて「元祖」や「発祥」とされる B 級グルメの数々も！？なんでも旨いのが宮崎でありました。このような環境下でワーケーションは行われておりました。

## 報告書 3

視察研修先 宮崎県都農町

視察研修項目 道の駅つのを中心とした6次産業化の取組

報告者 川股 洋一

宮崎県都農町では、道の駅を中心とした6次産業の推進に取り組んでいます。これは、道の駅を地域の産品や観光資源を活用した拠点として位置づけ、地域の活性化と産業の多角化を図る取り組みです。

具体的な取り組みとしては、以下のような活動が挙げられます。

### 1. 地域産品の販売促進：

道の駅では、地域の特産品や加工品を販売するショップが多数あります。これにより、農産物や加工品の販路拡大が図られ、地元の生産者（330）や加工業者の収入向上が期待されています。

### 2. 地域資源の活用：

都農町は美しい自然環境や観光資源が豊かであり、道の駅を起点とした観光地へのアクセスも便利です。道の駅では、地域の観光情報や体験プログラムを提供することで、観光客を呼び込み地域の活性化を図っています。

### 3. 産業交流の促進：

道の駅は地域の交流の場としても活用されており、地元のイベントやフェアも定期的開催されています。これにより、地域の産業や文化を発信し、地域内外の交流を促進することができます。

### 4. 農産物・加工品の付加価値向上：

道の駅内では、地元の農産物や加工品を使用したレストランやカフェも営業しています。これにより、地域特産品の魅力を活かし、付加価値の高い商品や料理を提供することで、顧客の満足度向上と売上の増加が期待されています。

このような6次産業の取り組みにより、都農町では地域の産業の多様化や地域経済の発展を目指しています。道の駅を核とした地域づくりや観光振興において、地域の特産品や観光資源を活かした産業の育成が進んでいます。

わが市においても、大学との連携等による地元産の話題となる人気土産商品の開発に取り組む必要性を強く感じたものであります。

尾鈴連山と日向灘が会う地、都農。

この土地が秘める「未知の力」を信じたひとりの若者によって、

尾鈴ぶどうの物語りは始まる。その人の名は「永友百二」。

師範学校に進むより、

農民として生きること夢を託した「信念の人」だった。

稲作に頼らない豊かな農業経営を理想とした「百二」は、19歳で梨園を開園する。

雨の多い都農で果樹栽培は不可能……誰もがそう思い込んでいた。

だが彼は農業試験場や果樹園芸専門誌の指導を受け、栽培技術を身につけていく。

雑木林を開墾し、苗を育て、ついには屋敷田にも梨を植栽。

「田んぼに木を植えるなんて」と周囲は非難したが、研鑽に研鑽を重ね、

やがて東京農大主催の全国梨品評会で入賞。二度にわたって一等を獲得している。

こうして梨栽培を軌道に乗せると、新たな試みに挑戦した。

終戦直後からぶどう栽培に着手し、昭和28年には県内で初めて巨峰を植付。

この年、「カトーバ、キャンベルぶどう酒仕込みや、マスカットベリーA 2貫収穫」の記録が残されている。

それから5年、巨峰は高値を呼び、注文殺到し、視察者が相次ぎ、ぶどう農家も増えていった。

かくして、ひとりの夢がみんなの夢とつながっていく。

雨、蔓割病、台風、塩害と戦いながらも生産量をのぼし、昭和43年には都農町ぶどう協議会が発足。

その後も彼は接木・挿木に技量を発揮し、新品種開拓に情熱を傾けた。

巨峰にスーパーハンブルグを交配した「尾鈴」、同じく巨峰に間瀬8号を掛け合わせた「日向」は、昭和55年、農水省に品種登録されている。

1本の苗と1本の台木から巨峰を増やし、尾鈴ぶどうを誕生させた伝説の人である。

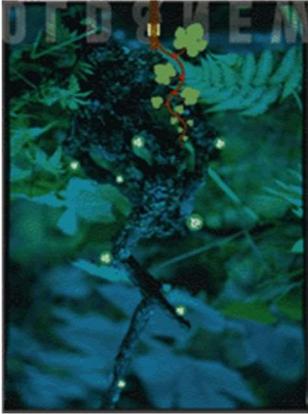
その志を継いで、都農は新たな夢を紡ぎ続けてきた。

県下有数のぶどうの里から、ワインの里へ、そして固有のカルチャーを発信する町となり、みんなの夢がいま、ハーモニーを奏で始めた。

都農の旧家・赤木邸の庭先には、50年前に植えられたぶどうの樹がある。

まるで盆栽のようなその古木は、いまもしっかりとした実をつける。

ぶどう栽培の草創期、先達たちが試行錯誤を繰り返したころの、野性味に富んだなつかしい味のぶどうである。先人の労苦を忍ぶことができるブドウの木である。



## 報告書 3

視察研修先 熊本県合志市

視察研修項目 半導体企業進出に伴う近隣市としての取組

報告者 川股 洋一

合志市に半導体企業が進出することで、周辺地域の都市もさまざまな取り組みを行っています。以下にその一部を紹介します。

### 1. 産学連携の推進：

近隣市では、半導体企業と地元の大学や研究機関との連携を進めています。これにより、産業界と学术界の連携強化が図られ、技術や知識の共有が進むことで地域の産業競争力向上が期待されています。

### 2. 教育環境の整備：

半導体産業の進出に伴い、近隣市では半導体関連の教育プログラムや職業訓練プログラムの整備を行っています。これにより、地域の労働力が求めるスキルをより早く身につけることができ、企業にとって有望な人材が供給されることが期待されています。

### 3. インフラの整備：

半導体企業の進出に伴い、近隣市では道路や公共交通機関、電力や通信などのインフラの整備が進められています。これにより、企業の物流や人の移動がスムーズに行えるようになり、地域の経済活動が活発化することが期待されています。

### 4. 地域振興策の策定：

近隣市では、半導体産業の進出を受けた地域振興策の策定も行っています。これにより、地域資源を活かした観光や農業、地場産業の振興など、多角的な地域活性化が図られることで、地域全体の発展が期待されています。

以上が近隣市の取り組みの一部です。これらの取り組みにより、半導体企業進出による地域の経済成長や産業発展が促進されることが期待されています。

### 5. 交通インフラ

半導体企業の進出により近隣市町からの通勤による交通渋滞が発生し問題化しております。企業努力として、通勤時間を 9 時まで延長し分散出勤できるような配慮も行ってきているようですが、根本的なインフラ整備が近々の課題となっております。

## 6、水問題

国土交通省は、台湾積体回路製造（TSMC）が熊本県菊陽町に新工場を建設することに伴う排水対策に財政支援する方針を明らかにした。新たな排水処理施設の整備費に対し、利用する企業の負担分を除いた額の3分の1を補助する。2024年度政府予算の概算要求に関連費を計上した。

新工場の一帯では半導体関連企業の集積によって工場排水が増えるため、既存の下水処理能力の向上が不可欠となっている。県は排水を確実に処理するため、国の支援を要望していた。

国交省は社会資本整備総合交付金 6563 億円の一部を、排水処理施設整備費の補助に充てる方針。整備費の全体額から、排水の質や量に応じて利用企業が負担する分を差し引いた額について、その3分の2を事業主体の地方自治体が支出し、3分の1を国が支援する。

県が国に提出した要望書によると、排水処理施設の事業費は概算で 280 億円。企業負担は 93 億 3 千万円、地方自治体は 124 億 5 千万円を起債で賄い、国負担は 62 億 2 千万円と見積もっている。

国交省は、排水処理施設の処理能力の3分の2以上を企業の排水が占める「特定公共下水道事業」に新規採択した上で、財政支援する構え。全国で下水道が普及し、企業排水をメインとする処理施設の整備は激減し、1977 年以来、採択された事例はない。

国交省は概算要求に合わせて新規採択を再開すると公表した。下水道事業課の担当者は「熊本県による新規採択の要望を受けた対応だ」と説明している。このように排水処理に係る負担が近隣市町にも及びます、わが市としてのデメリットをいち早く情報収集し対策を国や道に支援して頂けるよう、準備が必要です。

## 報告書 3

視察研修先 熊本県熊本市

視察研修項目 起業支援

報告者 川股 洋一

熊本市の起業支援施設「クロスポイント」は、熊本市が中小企業やスタートアップ企業の創業や成長を支援するために設立した施設です。以下に、クロスポイントの主な取り組みやサポート内容をご紹介します。

### 1. オフィススペースの提供：

クロスポイントでは、起業家や事業主に対して共用オフィススペースを提供しています。これにより、コストを抑えながら専用オフィスを利用することができ、コミュニケーションや情報交換の機会も得ることができます。

### 2. アクセラレーションプログラムの実施：

クロスポイントでは、起業家や新しいビジネスアイデアを持つ人々を対象に、アクセラレーションプログラムを実施しています。このプログラムでは、ビジネスモデルの構築や事業計画の策定、資金調達のサポートなど、起業に必要なスキルや知識を習得することができます。

### 3. ネットワーキングイベントの開催：

クロスポイントでは、様々な業界や分野の起業家やビジネス関係者が集まるネットワーキングイベントを定期的で開催しています。ここでは、意見交換や情報共有が行われ、ビジネスのパートナーや顧客を見つける機会を提供しています。

### 4. メンタリングプログラムの提供：

クロスポイントでは、経験豊富な起業家やビジネスエキスパートとのメンタリングプログラムを提供しています。これにより、起業や事業運営におけるアドバイスや指導を受けることができ、自身のビジネスをより効果的に成長させることができます。

クロスポイントでは、これらの支援施設やプログラムを通じて起業家や中小企業の成長を支援しており、熊本市の地域の経済発展や起業家精神の育成に貢献しています。

指定管理として建物の管理から事業運営まで多岐にわたり展開しておりました。

規模の大きい取り組みと小さくくりでの事業運営でした。参考になる部分の分析をこれから行い、わが市における起業支援の取り組みにいかしたいと思います。

視察研修先／宮崎県宮崎市												
視察研修項目／ワーケーションの取組について												
報告者／柏野大介												
<p>&lt;宮崎市の概要&gt;</p> <p>面積：643.57 km<sup>2</sup></p> <p>人口：400,775 人（令和 3 年 10 月 1 日）</p> <p>世帯数：185,812 世帯（令和 3 年 10 月 1 日）</p> <p>※平成 18 年に佐土原町、田野町、高岡町編入合併、平成 22 年清武町編入合併</p> <p>産業別人口：宮崎市総数 187,229 人（平成 27）／恵庭市総数 32,273 人（令和 2）</p> <table> <tr> <td>第 1 次産業</td> <td>9,661 人（5.2%）</td> <td>／1,277 人（4.0%）</td> </tr> <tr> <td>第 2 次産業</td> <td>28,871 人（15.4%）</td> <td>／6,715 人（20.8%）</td> </tr> <tr> <td>第 3 次産業</td> <td>141,376 人（75.5%）</td> <td>／12,479 人（73.8%）</td> </tr> <tr> <td>分類不能</td> <td>7,321 人（3.9%）</td> <td>／448 人（1.4%）</td> </tr> </table> <p>&lt;宮崎市の観光の概要とこれまでの取組&gt;</p> <p>観光入込客数 （R1）6,181 千人→R6 目標 6,700 千人</p> <p>宿泊者数 （R1）2,598 千人→ R6 目標 2,800 千人</p> <p>観光消費額 （R1）89,152 百万円→R6 目標 93,000 百万円</p> <p>R2 マーケティング調査（2000 社） 決算額 2,200 千円</p> <p>R3 モニターツアー（参加企業 12 社） 決算額 6,557 千円</p> <p>R4 プログラム開発等 決算額 3,334 千円</p> <p>R5 コンテンツ魅力向上、情報発信等 決算額 5,250 千円</p>	第 1 次産業	9,661 人（5.2%）	／1,277 人（4.0%）	第 2 次産業	28,871 人（15.4%）	／6,715 人（20.8%）	第 3 次産業	141,376 人（75.5%）	／12,479 人（73.8%）	分類不能	7,321 人（3.9%）	／448 人（1.4%）
第 1 次産業	9,661 人（5.2%）	／1,277 人（4.0%）										
第 2 次産業	28,871 人（15.4%）	／6,715 人（20.8%）										
第 3 次産業	141,376 人（75.5%）	／12,479 人（73.8%）										
分類不能	7,321 人（3.9%）	／448 人（1.4%）										

<考察と見解>

宮崎市は、もともとプロ野球の春季キャンプで有名な観光地であり、すでに多くの観光入込客数を有しているが、滞在型観光客の誘致が課題との認識からワーケーションに取り組み、観光消費額の増加を目指している。

実際の取り組みとしては、マーケティング調査を行った上で、モニターツアーを実施したものの、利用ニーズとの乖離を分析し、プログラムの修正を行っている。成果指標としては、①地域課題解決型のプログラム参加数、②個人の参加数、③支援補助人数を設定している。

宮崎市の場合、来訪者数の多くは九州内からきているが、ワーケーションで想定している対象は域外であり、ワーケーションを増やしていくときに、移動手段がボトルネックとなることが想定される。もともと宿泊施設については、多数立地をしており、繁忙期と閑散期の波が大きいことに対応する意味では、ワーケーションは有効に機能すると考えられるものの、そもそも宿泊施設のキャパシティに限界がある恵庭市では、移動よりも、宿泊がボトルネックになると考えられ、観光入込客数全体から見ると、現時点でもワーケーションの影響は限定的と考えられる。

滞在型観光を増やしていくためには、宿泊場所をいかに確保していくかということが課題となるのではないか。

視察研修先／宮崎県都農町												
視察研修項目／「道の駅を中心とした6次産業化の取組について」												
報告者／柏野大介												
<p>&lt;都農町の概要&gt;</p> <p>面積：102 km<sup>2</sup></p> <p>人口：9,559 人（令和 5 年 8 月 1 日）</p> <p>世帯数：3,987 世帯（令和 5 年 8 月 1 日）</p> <p>産業別人口：都農町総数 4,851 人（令和 2）／恵庭市総数 32,273 人（令和 2）</p> <table> <tr> <td>第 1 次産業</td> <td>1,289 人（26.6%）</td> <td>／1,277 人（4.0%）</td> </tr> <tr> <td>第 2 次産業</td> <td>1,078 人（22.2%）</td> <td>／6,715 人（20.8%）</td> </tr> <tr> <td>第 3 次産業</td> <td>2,484 人（51.2%）</td> <td>／12,479 人（73.8%）</td> </tr> <tr> <td>分類不能</td> <td>-人（-%）</td> <td>／448 人（1.4%）</td> </tr> </table> <p>&lt;都農町のこれまでの取組&gt;</p> <p>都農町は、県庁所在地である宮崎市（約 53km）と工業都市延岡市（約 52km）の中間に位置しており、町域の 63%は山林である。東九州自動車道が開通すると、並行する国道を通る人はいなくなるのではないかという意見があり、道の駅の建設の際には、町を二分する議論となった。そのため、都農町に立ち寄るための動機づけとして、道の駅でしか買えないオリジナル商品の開発に力を注いできた。その結果、数々のヒット商品が生まれ、リピーターが訪れるようになっている。</p> <p>売上は、当初計画で初年度 2 億 8,700 万円に対して、通年の営業ではなかったにも関わらず 3 億円を上回っており、その後も順調に売上を増加させてきた。オープンから 11 年が経ち、40 万人の年間集客目標に対して、7 年目（コロナ前）時点で 70 万人が来訪。利益の中から 1 億円を町に寄附している。</p>	第 1 次産業	1,289 人（26.6%）	／1,277 人（4.0%）	第 2 次産業	1,078 人（22.2%）	／6,715 人（20.8%）	第 3 次産業	2,484 人（51.2%）	／12,479 人（73.8%）	分類不能	-人（-%）	／448 人（1.4%）
第 1 次産業	1,289 人（26.6%）	／1,277 人（4.0%）										
第 2 次産業	1,078 人（22.2%）	／6,715 人（20.8%）										
第 3 次産業	2,484 人（51.2%）	／12,479 人（73.8%）										
分類不能	-人（-%）	／448 人（1.4%）										

< 考察と見解 >

町民所得向上に対する道の駅の寄与度は、正確には測れないが、間違いなく1次産業の付加価値向上は進んでいる。

6次産業化については、県内外の製造業者との連携を進めており、製品の種類によっては九州の外の事業者に製造を委託している例もある。そこでは、製品ごとに異なる事業者を域内で育成するよりも、品質を高めることに主眼をおいている。また、大学との連携など、商品そのものよりも、原料となる地域製品のブランド化を強く意識している点は非常に参考になる。

**【画像】**

現時点で、有力な加工事業者がないとするならば、まずは域外の事業者の力を借りても、地域製品のブランド力を高めるという考え方は理解できるものであり、恵庭市としても、どちらを優先するのかということは一考の余地がある。

指定管理者からの町に対して1億円の寄附を行っている点については、指定管理料その他の条件での優遇措置があり、そのもとで大きな利益を出していることから、道の駅の入居事業者が家賃を支払っている恵庭市とは単純に比較することは難しい。

視察研修先／熊本県合志市												
視察研修項目／半導体企業進出に伴う近隣市としての取組について												
報告者／柏野大介												
<p>&lt;合志市の概要&gt;</p> <p>面積：53.19 km<sup>2</sup></p> <p>人口：61,772 人（令和 2 年国勢調査）</p> <p>世帯数：22,283 世帯（令和 2 年国勢調査）</p> <p>産業別人口：合志市総数 人（令和 2）／恵庭市総数 32,273 人（令和 2）</p> <table> <tr> <td>第 1 次産業</td> <td>1,213 人（4.4%）</td> <td>／1,277 人（4.0%）</td> </tr> <tr> <td>第 2 次産業</td> <td>7,488 人（27.1%）</td> <td>／6,715 人（20.8%）</td> </tr> <tr> <td>第 3 次産業</td> <td>18,934 人（68.5%）</td> <td>／12,479 人（73.8%）</td> </tr> <tr> <td>分類不能</td> <td>-人（-%）</td> <td>／448 人（1.4%）</td> </tr> </table> <p>&lt;合志市のこれまでの取り組み&gt;</p> <p>熊本県北東部に位置する合志市は、熊本市に隣接する南西部を中心に市街地が形成されてきた。熊本市のベッドタウンとしての位置付けに加え、近年は半導体企業進出に伴う企業立地の活発化などにより、人口の増加が著しい。市域の約 9 割が市街化調整区域ということで、発展の余地は大きいものの、道路などの都市インフラも限定されており、近年の工場立地などにより渋滞は深刻な問題となっている。</p> <p>半導体企業の進出に伴う環境への影響については、市単独ではなく、県として環境モニタリングの拡充や法令の規制外の化学物質調査、県や近隣自治体も含めた協定書などにより、環境保全を図っている。</p> <p>道路に関しては、市単独で交通量や渋滞長に関する基礎調査を行い、道路移動の満足度に対する意識調査も実施している。道路整備やインターチェンジの設置については、こうした市民ニーズも踏まえて道路整備計画に反映している。</p>	第 1 次産業	1,213 人（4.4%）	／1,277 人（4.0%）	第 2 次産業	7,488 人（27.1%）	／6,715 人（20.8%）	第 3 次産業	18,934 人（68.5%）	／12,479 人（73.8%）	分類不能	-人（-%）	／448 人（1.4%）
第 1 次産業	1,213 人（4.4%）	／1,277 人（4.0%）										
第 2 次産業	7,488 人（27.1%）	／6,715 人（20.8%）										
第 3 次産業	18,934 人（68.5%）	／12,479 人（73.8%）										
分類不能	-人（-%）	／448 人（1.4%）										

< 考察と見解 >

合志市における工業団地開発や都市計画のお話を伺うと、熊本県が主導し、県全体での最適配置を目指していることが感じられる。企業立地のガイドマップを見ても、単独の市町村ではなく、複数の自治体が地図には掲載され、そこには道路網や鉄道網も描かれている。実際に製造業は、自治体の境界付近にも立地をしており、単独の市町村で企業誘致や工業団地の適正配置を考える上では非効率であることがわかる。

市として独自の発想や方向性を持つことは重要だが、大規模な産業の集積にあたっては、水道、道路などのインフラや環境への影響など、単独の自治体にとどまらない課題が多くなるため、都道府県のリーダーシップによる方向性の提示は特に重要だと感じる。

視察研修先／熊本県熊本市																																
視察研修項目／起業支援について くまもとスタートアップセンター XOSSPOINT クロスポイント																																
報告者／柏野大介																																
<p>&lt; 熊本市の概要 &gt;</p> <p>面積：390.32 平方キロメートル</p> <p>人口：730,748 人</p> <p>世帯数：357,366 世帯</p> <p>産業別人口：熊本市総数 人（令和 2） / 恵庭市総数 32,273 人（令和 2）</p> <table> <tr> <td>第 1 次産業</td> <td>10,994 人 (3.3%)</td> <td>/</td> <td>1,277 人 (4.0%)</td> </tr> <tr> <td>第 2 次産業</td> <td>55,842 人 (16.9%)</td> <td>/</td> <td>6,715 人 (20.8%)</td> </tr> <tr> <td>第 3 次産業</td> <td>264,029 人 (79.8%)</td> <td>/</td> <td>12,479 人 (73.8%)</td> </tr> <tr> <td>分類不能</td> <td>- 人 (-%)</td> <td>/</td> <td>448 人 (1.4%)</td> </tr> </table> <table> <tr> <td>市民税（合計）</td> <td>60,520,305 (50.1%)</td> <td>/</td> <td>恵庭市 3,740,490 (44.0%)</td> </tr> <tr> <td>個人市民税</td> <td>51,742,507 (42.9%)</td> <td>/</td> <td>3,263,638 (38.4%)</td> </tr> <tr> <td>法人市民税</td> <td>8,777,798 (7.3%)</td> <td>/</td> <td>476,852 (5.6%)</td> </tr> <tr> <td>固定資産税</td> <td>42,306,703 (35.1%)</td> <td>/</td> <td>3,400,423 (40.0%)</td> </tr> </table> <p>&lt; これまでの取り組みの概要 &gt;</p> <p>熊本日日新聞、TRC など 6 社で JV を組み、指定管理をおこなっている。</p> <p>指定管理料は年間 3 億 7,600 万円であり、総経費約 4 億 3,000 万円に対して、収入見込みが約 5,500 万円となっている。クロスポイント分の運営費としては約 6,700 万円であり、これには常勤職員 3 名分の人件費なども含まれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業支援室（6 室） 創業志望者や創業 1 年以内が対象</li> <li>・ スモールオフィス（10 社） うち 8 社は県外企業</li> <li>・ 企画イベント 354 回（R4）</li> </ul>	第 1 次産業	10,994 人 (3.3%)	/	1,277 人 (4.0%)	第 2 次産業	55,842 人 (16.9%)	/	6,715 人 (20.8%)	第 3 次産業	264,029 人 (79.8%)	/	12,479 人 (73.8%)	分類不能	- 人 (-%)	/	448 人 (1.4%)	市民税（合計）	60,520,305 (50.1%)	/	恵庭市 3,740,490 (44.0%)	個人市民税	51,742,507 (42.9%)	/	3,263,638 (38.4%)	法人市民税	8,777,798 (7.3%)	/	476,852 (5.6%)	固定資産税	42,306,703 (35.1%)	/	3,400,423 (40.0%)
第 1 次産業	10,994 人 (3.3%)	/	1,277 人 (4.0%)																													
第 2 次産業	55,842 人 (16.9%)	/	6,715 人 (20.8%)																													
第 3 次産業	264,029 人 (79.8%)	/	12,479 人 (73.8%)																													
分類不能	- 人 (-%)	/	448 人 (1.4%)																													
市民税（合計）	60,520,305 (50.1%)	/	恵庭市 3,740,490 (44.0%)																													
個人市民税	51,742,507 (42.9%)	/	3,263,638 (38.4%)																													
法人市民税	8,777,798 (7.3%)	/	476,852 (5.6%)																													
固定資産税	42,306,703 (35.1%)	/	3,400,423 (40.0%)																													

2020 年、予算 300 万円 熊本シティピッチ

2021 年、予算 1500 万円 肥後キャンパス

2022 年、クロスポイントリニューアルオープン

2023 年、体制が室→課に拡充

#### <考察と見解>

九州では、福岡市を中心にスタートアップ支援に力を入れている自治体が増えているが、熊本市でも 2020 年から強力にスタートアップ支援の取り組みを強化している。

その結果、昨年の起業件数は 28 件と過去最高を記録しており、まちの規模からすると、さらなる拡大が期待されるものの、確実にスタートアップの種はまかれていると考えられる。

創業支援室もスモールオフィスも、希望者が定員を超える状態が続いており、駅前という立地もさることながら、研修や相談会などの情報や、サポーターやメンターなどのつながりへの期待が強く感じられる。

恵庭での創業支援の取り組みについても、場所を用意すればいいということではなく、顔の見える支援がなくては、利用の増加にはつながっていかないと考えられる。

視察研修先・宮崎県宮崎市

視察研修項目・ワーケーション事業について

報告者・吉永 孝之

### 1. 概要

宮崎市は、ワーケーションの先進地であり、市内の他、青島や一ツ葉エリアなどに様々なワークプレイスやアクティビティを楽しめる環境が整っている。観光地や帰省先など、自宅以外の休暇先で、リモートワークができかつリフレッシュができる。宮崎市を視察して本市のワーケーション事業の政策課題について、解決方法や成果を出すため、行政視察を実施した。

### 2. 宮崎市の概要

面積:643.67 平方キロメートル 人口:397,483 人 1998 年（平成 10 年）から中核市

### 3. 視察内容

「仕事も旅行も楽しみたい」「いつもと違う環境で仕事をしてみたい」という人におすすめである点について説明を受けた。

ワーケーション:「Work (仕事)」+「Vacation (休暇)」を組み合わせた言葉である。休暇を楽しみながら働くスタイルでフリーランサーやリモートワーカーなど、場所にとらわれず仕事をする人達を中心に、近年人気を集めている。また、同時に企業団体も従業員のリフレッシュのためと生産性の向上や従業員の定着率向上を目指し、積極的に進めている傾向にある。

#### (1) 農業を通じたワーケーション

担い手不足、高齢化で休耕中の田んぼや畑を利用して、ワーケーションに活用していた。利用者と企業団体の満足度が高く成功を収めていた。

#### (2) ワークスペース

(Wi-Fi・モニター貸出・プロジェクター・プリンター・コピー機等の貸出しあり)

高鍋: KIW MUKASA-HUB 宮崎市高岡町小山田字麓 973-2

宮崎市:Business Room 天岩戸 宮崎市大字赤江 宮崎空港内

宮崎市:ブーゲンラウンジひなた 宮崎市大字赤江 宮崎空港内

青島:BAR + Workplace 宮崎県宮崎市青島 2 丁目 6-5

このほか 4 か所のワークスペースがある。

### 4. 所見

当初は、休暇型のワーケーションから始まり、その後地域課題解決型に取組まれたとのこと。

農業と仕事を結び付け、お互いの良いところを引き出しているという印象を受けた。特に、コロナ禍の中で外出できない時期に有効に働いた事業であるが今後も、継続して事業展開が見込まれる予定とのことである。本市でも市内消費による地域経済の活性化、移住定住の促進、連携しての地域課題の解決に繋げていく。

お忙しい中、ご対応いただき感謝いたします。

視察研修先・宮崎県都農町
視察研修項目・道の駅を中心とした6次産業化の取組み事業について
報告者・吉永 孝之
<p>1.概要</p> <p>都農町は、「農の都」の名のとおり、宮崎の中でも質の高い農産物の生産地ある。2017年度のふるさと納税制度による納税額は79億円を上回る規模で全国でもトップクラスとなった。ふるさと納税寄付者に、都農町自慢の名産品に力を入れた商品を発送し、楽天市場の「ショップ・オブ・ザ・イヤー」にて2年連続「ふるさと納税大賞」を受賞している。</p> <p>2. 都農町の概要</p> <p>宮崎市の北北東約40kmの場所に位置する。</p> <p>面積:102.11km<sup>2</sup> 総人口:9,559人</p> <p>3. 視察内容</p> <p>(1)道の駅 都農</p> <p>350名ほどの農業生産者を大切にしている、道の駅が商社機能を担い、JR九州のクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」への特産品納入を実現している。また、プライベートブランドの商品を開発してオンリーワン化で、販売力の強化しに努めていた。今後は、道の駅 つの の年間来訪者数100万人を目指し、1泊2日で楽しんでもらえるコンテンツの拡充を図っていくとのこと。都農町は、道の駅を軸にしていきいきとした地方創生を進めていた。</p> <p>(2)つの ワイナリー</p> <p>イギリスのワイン専門誌「ワインリポート」で「世界の最も注目すべきワイン百選」に選ばれ、アジア最大規模のワイン審査会「ジャパンワインチャレンジ」で3年連続金賞を受賞した世界が認めた品質に優れたワインを作っている。</p> <p>ワインは、都農町産ブドウ100%で作られる。視察の際、これから北海道に輸送されるブドウが山積みされていた。</p> <p>4.所見</p> <p>株式会社 都農まちおこし屋が中心となって都農町が協力をバックアップを行い、生産者とコミュニケーションを大切に、JR九州や郵便局等を巻き込んで展開していた。ワインは、多雨で山間部の悪土壌でコメ作りに適さなかったのを利用して、都農町の気候に適するように品種改良した結果が現在に至っている。</p> <p>地域コミュニティー丸となって町おこしに邁進している姿に感動を覚えると同時に頭が下がる思いであった。お忙しい中のご対応いただき感謝いたします。</p>

視察研修先・熊本県合志市
視察研修項目・半導体企業進出に伴う近隣市の取組みについて
報告者・吉永 孝之
<p>1.概要</p> <p>TSMC の熊本県に設立した子会社である JASM が熊本県菊池郡菊池町に建設中である。合志市は、 JASM まで 1Km 程度で非常に近いところに位置している。</p> <p>千歳市に建設予定の先端半導体の国産化目指す「Rapidus」を見据えて行政視察を実施して、政策課題を洗い出し、早期の対策や解決方法を検討する。</p> <p>2.合志市の概要</p> <p>面積： 53.19km<sup>2</sup> 総人口： 63,325 人</p> <p>2006 年（平成 18 年）2 月 27 日 菊池郡合志町・西合志町が合併し合志市が発足。</p> <p>合志市に本社を置く主要企業：</p> <p>熊本ガス、合志技研工業（本田技研工業の連結子会社）</p> <p>東京エレクトロン九州、吉弘鋼材</p> <p>熊本県内の 14 市のうち唯一、集配郵便局と高校が、ない市である。</p> <p>3.視察内容</p> <p>(1) 合志市は、熊本市のベッドタウンとして人口は増加傾向にあるが、熊本県内の 14 市のうち、唯一集配郵便局と高校を有しない市である。近年、市役所近くにインターチェンジの建設計画がありさらに便利になる。</p> <p>(2) 地元企業と半導体人材の獲得競争が激化している。</p> <p>(3) 外国人のお子様の教育への対応は、熊本大学にインターナショナルスクールを設置する方向とのことであった。</p> <p>(4) 現在のところ地元企業への発注はなく、仕事量の増加は、見られない。</p> <p>(5) 住宅に関しては、関連企業の進出も相次ぎ、住宅や土地の獲得競争が激しくなっていること、「相場の高騰」、「風水など文化の違い」、そして数千万円の購入を即決する「スピード感」があるそうである。</p> <p>4.所見</p> <p>大きな企業、工場が短時間に稼働したことで周辺の交通渋滞が喫緊の課題だということである。短期的な対策として、周辺の企業、工場の協力を得て時差出勤を実施して渋滞緩和に対処していた。また、バス通勤を推奨し私有車使用の抑制を図っていた。</p>

視察研修先・熊本県熊本市
視察研修項目・起業、創業スタートアップ支援事業について
報告者・吉永 孝之
<p>1. 概要</p> <p>熊本市では、従来の経営相談や創業支援に加えて、新たな市場を開拓し飛躍的な成長を目指す起業家等の発掘・育成に取り組む熊本市初のスタートアップ支援施設を設置している。成長ステージに合わせた支援プログラムや起業家コミュニティの形成を図るなど、スタートアップ支援の拠点として、新たなビジネスモデルや新産業創出をしている。行政視察を実施し本市に適合するのか、取り入れるべき政策課題がないかを洗い出した。</p> <p>2. 熊本市の概要</p> <p>面積:390.32km<sup>2</sup> 総人口: 737,174 人</p> <p>政令指定都市の一つで</p> <p>西区、北区、中央区、東区、南区の5つの行政区が設置されている。</p> <p>3. 視察内容</p> <p>(1)施設見学</p> <p>熊本駅前に位置する XOSS POINT. の各施設を見学させていただいた。</p> <p>受付カウンター、メインフロア、スモールオフィス、創業支援室</p> <p>(2) 成長ステージに応じたサポートを実施している</p> <p>経営相談員・融資相談員とも連携し、交流会やワークショップ等を開催</p> <p>中央ステージでは定期的にイベントを開催しコミュニケーションを促進</p> <p>ビジネス支援施設職員及び中小企業診断士等専門家による助言や定期的な勉強会</p> <p>4. 所見</p> <p>視察した XOSS POINT. では、熊本県としっかりと連携して、熊本市で起業するメンバーに対して、魅力的な起業に向けた場を創り、県内で新たなビジネスを生み出す人材の育成に取り組んでいた。</p> <p>特に起業時期の人脈形成のため各種イベントを開催して交流に努めていた。有料のドリンクには、ビール、サワーもありゆったりとした環境の中で、交流できるよう配慮されており、配置されている市職員もボロシャツとデニムパンツとフランクに相談できる環境づくりに努められていることを肌で感じた。</p> <p>起業家とサポーターが XOSS POINT. で交わり、ともに新しい社会を作り出す起点となる場所である。</p>

視察研修先・宮崎県宮崎市

視察研修項目・宮崎市のワーケーションの取り組みについて

報告者・早坂 政芳

最近では珍しいプロペラ機の飛行機で、宮崎空港に着陸して市内で昼食後に宮崎市役所に到着すると、市の観光商工部観光戦略課の方から宮崎市のワーケーションの取り組みについて説明を受けました。

宮崎市は、豊かな自然環境と歴史的な観光地が魅力的な地域です。黒潮の影響を受けた温かい海水と年間を通じての良質の波によるサーフィンやマリンスポーツが楽しめたり、田んぼオーナーとなり会社で農作業体験をして親睦をはかったりすること等ができます。

令和2年度にマーケティング調査を実施して首都圏企業等のニーズを掌握して、コワーキングスペースや共同オフィスの施設を作って仕事に集中できる環境を整えました。

また社員旅行的に、田植え及び稲刈り体験、大根収穫、トウキビの収穫等も実施しており、社員の親睦向上にも利用されているとのことでした。

恵庭市においても、道と川の駅・花ロード恵庭、えこりん村、自然豊かな盤尻溪谷、更には農作業体験、近隣地域の積丹地区、道央地区の観光施設とあわせてワーケーションの取り組みが実施できると思われました。しかし、ワークする施設が少ない等の課題があると思われました。

視察研修先・宮崎県宮崎市都農町

視察研修項目・都農町道の駅研修について

報告者・早坂 政芳

都農町道の駅に着きますと、町議会議長の三輪氏、副町長の花房氏から挨拶いただきました。町役場のまちづくり課、産業振興課の方から説明をお聞きしました。

都農町は人口 9600 人で北海道の佐呂間町と友交関係を結んでいる、農業・漁業・畜産業が盛んな町とのことです。道の駅「つの」は地場産の農・林・水・畜産物直売や地域の交流の拠点として、平成 25 年 7 月にオープンして都農神社の門前町のような位置にあり、地域特産品の販売スペース、レストラン、お土産物店があり、また観光交流館も備えてあり、会議や防災の備蓄、非常電源の装置もあり、非常時には地域防災の拠点となるとのことです。駐車場、トイレ等の施設も充実しており、多い年では年間に約 70 万人近くの来場者、約 12 億の売り上げをだしている町の巨大企業といった様態でした。

株式会社「都農まちおこし屋」を商工会、JA、漁協が出資して作って道の駅を運営しており、365 人の農作物等を出資する人がおり、道の駅でしか買えない商品等もあり、遠くからお客さんもきているとのことで、視察の時もたくさんの人で賑わっていました。

恵庭市の道の駅「かのな」も、おおくのお客さんが来ていますが、商品のアピールを検討したり、レストラン、更には防災時の活用も考える等と参考になるところがたくさんありました。

視察研修先・宮崎県宮崎市都農町

視察研修項目・都農町ワイナリー研修について

報告者・早坂 政芳

都農町の見晴らしの良い丘のうえに都農町の運営するワイナリーがありました。大変見晴らしが良くて、眼下に都農町の町並み、日向灘、福浦湾が望めるロケーションでワインを楽しみながら、景色をたのしめる施設もあり、観光客や町民の憩いの場所にもなっているところでした。

ワインの製造を行うための施設が充実しており、醸造タンクや貯蔵庫があり、ワインの製造が効率的に実施されていると思いました。

都農町はブドウの栽培に適した気候条件があり、地域のブドウを使用してワインを作っており、地元の特産品としてワインを生み出しているのは素晴らしいと思いました。

人口が1万人にならない町でこのようなワイナリーを持ち、地域のブドウを使用して、町の特産品を作り、更にその施設を観光施設としたり、町のイベント会場としても使ったりしており、創意工夫に驚きました。

恵庭市にも、地元の生産物で市の特産物を作って道の駅とか、恵庭の施設で販売すれば、観光客の増加、地域の交流の活発化に貢献できるものと思いました。

視察研修先・熊本県合志市

視察研修項目・半導体企業進出に伴う近隣市としての取り組みについて

報告者・早坂 政芳

合志市市役所に着くと、議会議長の後藤氏、市役所産業振興部木永部長等から説明を頂きました。人口は、約6万5千人と恵庭市とほぼ同じ規模であり、市域の約9割が市街化調整区域で市街化区域は、約1割となっています。そのために、市街化調整区域において都市計画制度や集落内開発制度を用いた開発が実施されており、現在も人口増化が続く活気のある町です。特に隣接する菊陽町に半導体受託生産大手のTSMCの進出や、「中九州横断道路」の事業化によりセミコンテクノパーク及びその周辺における産業集積が一段と進む見込みとなっている状況で大変活気のある町になっています。

令和3年11月にTSMCとソニーの工場が市と隣接する地域に建ち、今年8月では約2500人が雇用されており、市内の道路も片道1車線であり道路網も少ない状況で通勤時は時差出勤しているとしても渋滞が問題となっている。

市内でも、工場の従業員の仮宿舎や戸建て約500戸の住居が新築され不動産、建築業で地域経済が活性化している状況である。

千歳市にできるラピダスは、TSMCの約3倍の規模であり隣の恵庭市も当然影響をうけるものと思われます。初めは従業員の住宅関連かと思われますが市の今後の発展のためにこの機会を利用することが重要と思います。

視察研修先・熊本県熊本市

視察研修項目・熊本市の新産業企業支援について

報告者・早坂 政芳

熊本市のスタートアップセンター クロスポイントに到着すると、市の企業・新産業支援課課長の野口氏はじめ、スタッフの方が説明をしてくれました。

クロスポイントは企業家や新規事業立ち上げを支援するための研修所です。研修所では様々なトピックスに関する研修やワークショップが開催されており、企業家が必要とするスキルについて幅広く学ぶことができます。

講師は実際に企業経験をもつ企業家やビジネス専門家で、講師はクロスポイントに常在し、初めて企業する人から既に企業している人のスキルアップを図りたい人まで、幅広いニーズに応えるためのプログラムが用意されて、また他の起業家たちとのビールを飲んでの交流を深めることもできる施設です。

個人の部屋、複数人の部屋が用意されており、企業家の人たちは効率的、集中的に業務を進めることができます。

恵庭市でも企業家支援はやってますが、短い期間であったり、講師が常駐して指導する施設がなかったり、企業家同士の交流の場が無いなどとまだまだ不十分であると思われました。官産学の連携による企業支援、若年層の流出防止策にもなることから、恵庭市でもこれから力をいれていきたいところです。